

守口市立さつき学園

機能をコンパクトにおさめ屋内外にゆとりのスペースを生み出す新しい義務教育学校

建物概要

- 所在地：守口市春日町
- 用途：義務教育学校
- 敷地面積：17,415.10㎡
- 建築面積：5,332.18㎡
- 延べ面積：14,206.58㎡
- 構造：鉄骨造 一部 鉄筋コンクリート造
- 階数：地上5階/地下1階
- CASBEE 評価：Aランク/BEE値 1.9
- 重点評価：CO₂削減 3.7 / 省エネ対策 3.7
みどり・ヒートアイランド対策 3.7

- 建築主：守口市
- 設計者：株式会社浦辺設計



↑南側の拡幅歩道沿いの景観

人工芝グラウンド東側から校舎を望む→



【立地、周辺環境】

京阪電車の土居駅前に位置し、周囲は北面の一部で、京阪電車沿いの幅員11mの市道に面している以外は、幅員4.5m～5.5mの細街路に面している。また西側は戸建住宅とマンションに接している。旧春日小学校敷地に校舎を、旧第三中学校敷地にグラウンドを整備し、同じ中学校区の滝井小学校と共に2小1中を統合した。

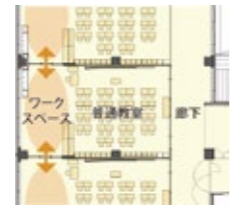
【総合的なコンセプト】

街中の狭小敷地に義務教育学校として9年間の連続した学びの場をコンパクトにおさめながら、教育環境面での配慮として、屋上のおおぞら菜園、校庭のバタフライガーデン、拡幅歩道の桜並木など、直接自然と接する場を整備した。また風の塔の自然換気システムや1年生から6年生までの普通教室内の窓側に設けるワークスペース（日本建築における広縁の考え方）など、温熱環境の緩衝装置を工夫している。周辺環境への配慮として、南側の拡幅歩道、西側の壁面後退、北側の低層化などによって、貴重な屋外のゆとりのスペースを生み出すと共に、桜並木の整備や既存樹木の保存によって、地域に親しまれる学校づくりを目指した。

建物断面構成図

窓側の直射日光を緩和するワークスペース

1年生から6年生の普通教室は13m×8mの総合型教室とし、窓側にワークスペースを設けることで、隣接教室を相互につなぎ、開放的な学習環境をつくる。このワークスペースは日本建築の広縁的な役割をもち、屋内外の緩衝空間となる。



↑教室廻り平面図



↑窓側にワークスペースを設けた普通教室

周辺環境にやさしく調和する 勾配屋根

建物の外周部は勾配屋根とし、周辺環境との調和を図っている。特に北側は重なる勾配屋根が徐々に低くなるようにし、日影の影響を最小化すると共に、高密度な都市空間にゆとりを与えている。

校舎内に自然な空気の流れをつくる風の塔

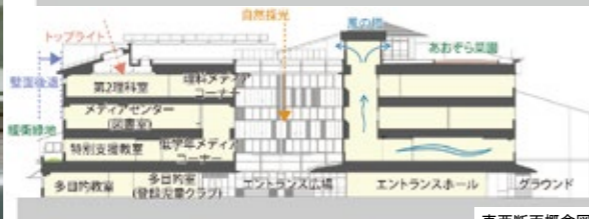
中庭を囲む回廊の一角に設けられたメイン階段に沿って、2階床から屋上までつながる吹抜をつくり、屋上の風の塔に設けた自動開閉換気窓で自然排気する。給気は各階廊下の、吹抜けから最遠部にガラリを設け、自然給気している。



南北断面概念図



↑左：中庭から望む風の塔
右：階段の奥に風の塔の吹抜、さらに奥に被服準備室を望む



東西断面概念図



↑北側で徐々に低くなる勾配屋根

環境配慮事項とねらい



↑屋上のおおぞら菜園（奥左：風の塔 奥右：ガーデンハウス）
←西側の壁面後退と緩衝緑地

本格的な農作業ができる屋上のおおぞら菜園

深さ50cmの客土によって、畝をつくれば根菜の栽培ができる320㎡の本格的な菜園となっている。ガーデンハウスとテラスでの収穫野菜の選別や陶芸の作陶作業（ガーデンハウスに設置した電気窯）など、土と自然とのふれあいを通じて地域との交流が図れる。また、プールと菜園以外の屋上は、外断熱工法の防水仕上げとし、環境負荷を低減している。

西側隣地との間に設ける重層的な緩衝緑地

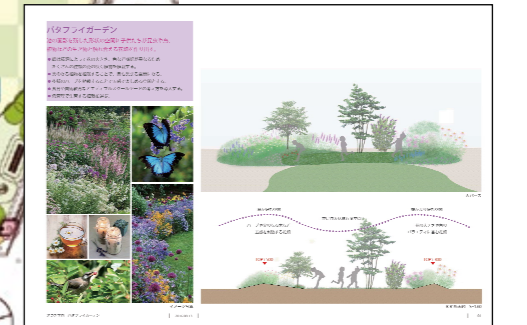
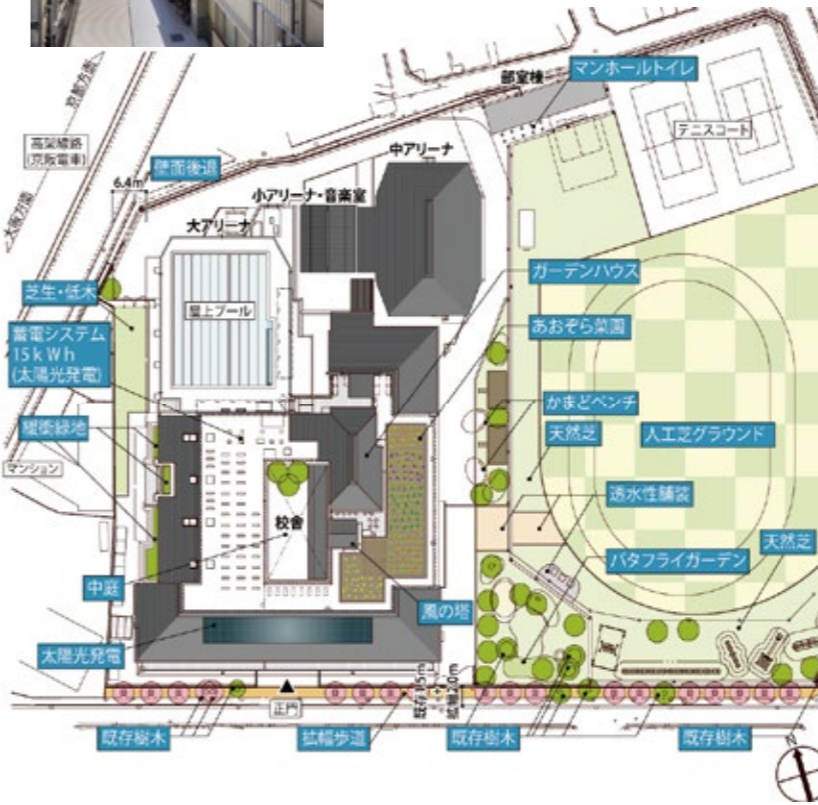
既存校舎は隣地境界に近接していたが、新築校舎は約6.4mセットバックすると共に、上層になるほどさらにセットバックし、1・2・4階にわたって重層的に緩衝緑地を設け、隣接マンションからの景観に配慮している。

外構の芝生化による砂埃の飛散防止

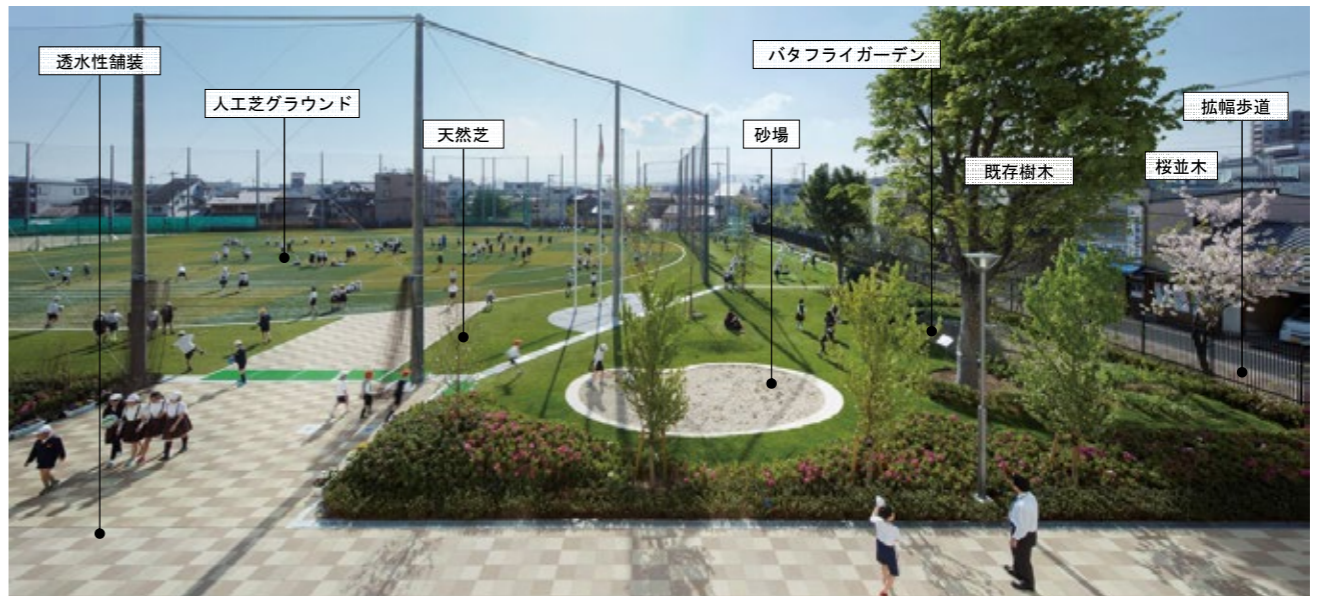
グラウンドは人工芝とし、年間を通して緑の景観をつくと共に、周辺への砂埃の飛散を防いでいる。また、人工芝周辺は天然芝とし、ヒートアイランドの防止に役立てると共に、自然との触れ合いを大切にしている。

様々な児童に配慮したバタフライガーデン

管理面や児童の安全への配慮から、水たまりをつくらないバタフライガーデンを整備した。



↑バタフライガーデンの説明図



↑左：人工芝グラウンド 右：天然芝のエリア 既存樹木の奥にバタフライガーデン